

# 簡易ハウスでの野菜栽培

JAグループ和歌山農業振興センター 技術参与 本田 孝志



## 【はじめに】

冬の低温期にホウレンソウやコマツナを露地で栽培すると、寒さで品質が低下することがあります。一方、ハウス栽培では品質が良くなりますが、経費がかかります。

そこで、今回は簡易なハウスを設置して冬の低温期でも品質の良い野菜を安定出荷する栽培方法について紹介したいと思います。なお、簡易ハウスは生産者の方が自分で設置や撤去ができるような、軽量で簡易な構造を考えています。

## 【簡易ハウスの構造】

図1は、現時点で考えている簡易ハウスの構造です。上の図はハウスを正面から見たもので、間口3m、中央の高さは1.8mとなっています。パイプの太さは19mmで、中央部で接続するようにしています。

下の図は横から見たもので、パイプの間隔は80cm、被覆資材はP O（ポリオレフィン）で厚さは0.05mmです。ハウスの端は強度を強くするため、斜めにパイプを設置します。

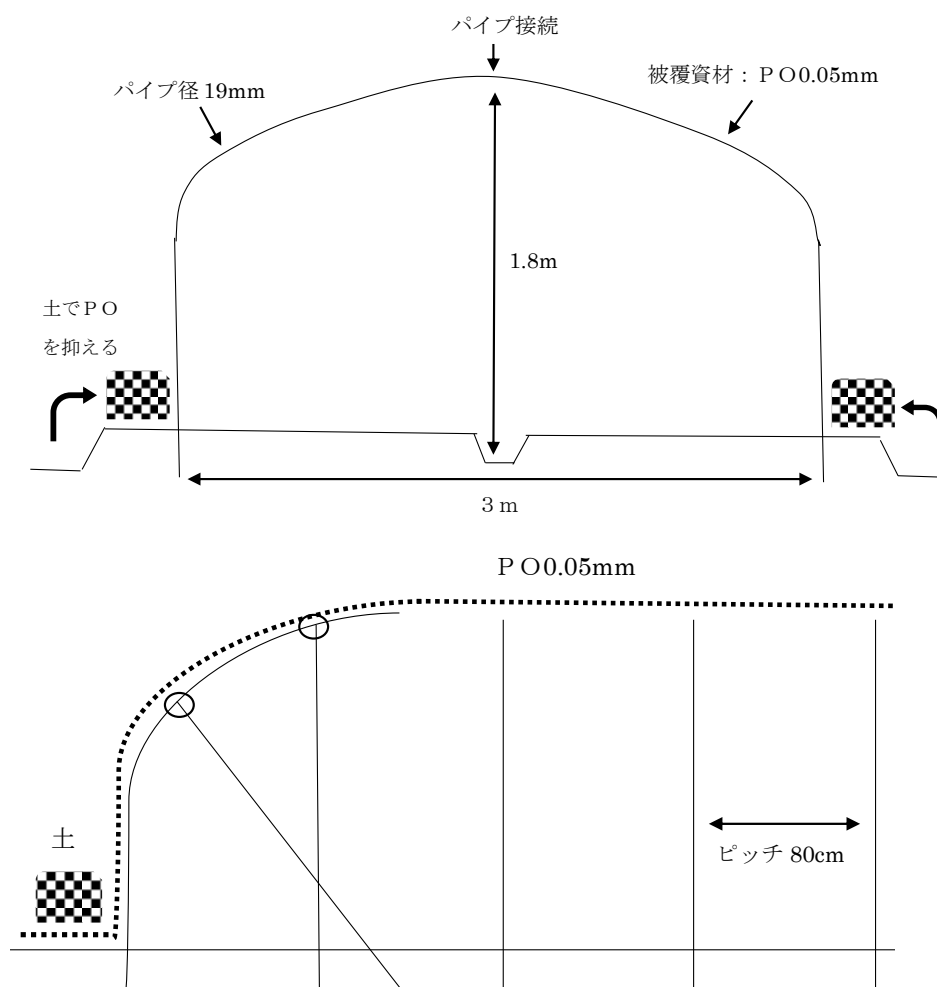


図1 簡易ハウスの構造

ハウスは直管パイプで支えています、さらに、被覆資材のPOを土でしっかりと抑えることによって強度が強くなるようにしています。

なお、直管パイプは毎年使用できますが、被覆資材のPOは1年間の使用となります。

### 【作業スケジュール】

図2は一年間の作業スケジュールの例を示したものです。簡易ハウスは冬の強風には対応できますが、台風の暴風では破損することも考えられるので、台風シーズンが過ぎた11月上旬ころに被覆するように考えています。

真冬の低温期はハウスは閉めっぱなしの状態となりますが、日差しが強くなるのにともない、被覆POに直径12cm程度の穴を開け、ハウス内の気温を調節するようにします。なお、灌水の省力化のため、あらかじめ灌水チューブを設置しておくとうよいでしょう。

月	作業	
10		
11	パイプ設置・PO被覆 (台風シーズン後)	
12	↓ 冬春野菜の栽培	↑ POに穴あけ (温度調節)
1		
2		
3		
4	↓ パイプ及び被覆除去	↓ 被覆のみ除去 (パイプを活用)
5		
6	↓ 水稲栽培	↓ 夏野菜の栽培
7		
8		
9		

図2 作業スケジュール

### 【栽培品目】

#### ①冬野菜の栽培

ホウレンソウ・コマツナ・サニーレタス等の品目があります。

例えば、ホウレンソウをハウス設置後すぐに播種すると、12月末に収穫できます。その後順次種を播いて春まで連続的に収穫することができます。コマツナやサニーレタスも同様の栽培が可能と思います。

#### ②春からの栽培品目

ホウレンソウなどを収穫した後は、エダマメなどの早出し栽培ができます。さらに、被覆資材を除去した後、パイプ資材を活用してキュウリやゴーヤなどを栽培することもできます。



図3 葉菜類の栽培状況

### 【まとめ】

このような簡易なハウスでの栽培は和歌山県内では数名の農家の方が取り組んでいる程度です。簡単な構造のため、専業農家の方はもとより、兼業農家や新規就農の方など様々な担い手の方に推進することができます。

今後、JAの皆様と栽培方法等について検討を重ね、簡易ハウスの普及に取り組んで参りたいと考えています。